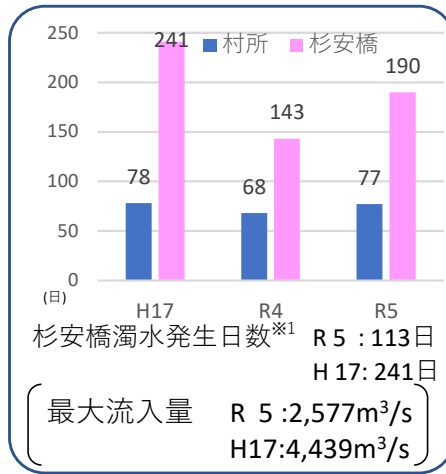
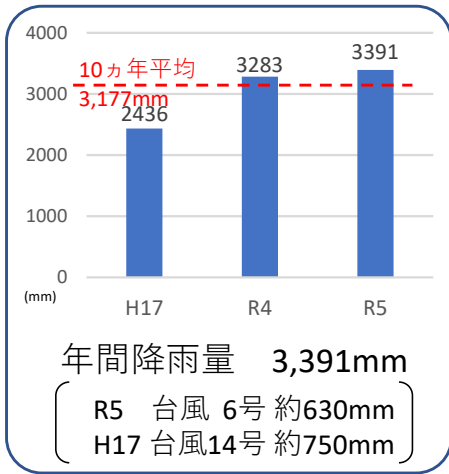


～ 令和5年度の主要対策 ～

2 中下流域

(1) 濁水対策の実施状況等



※1、※2 村所(西米良村) - 杉安橋(西都市)
※2 選択取水設備不具合による切替操作不可期間含む

(2) 下流域環境調査結果 (調査関係資料)





写真はイメージ

【ヤマトシジミ】

出水前より出水後が減少。
R3年度以前と同様の状況。

金丸堰下流



R4



R5

【アユ】

産卵場数は一ツ瀬ダム上流で4箇所、下流域で6箇所確認。
流下仔魚数はR4年度と比べて増加したものの少ない状況。



オイカワ

写真はイメージ

【魚類】

一部個体数の少ない地点が見られたが、概ねこれまでの変動の範囲内。
魚類相に大きな変化なし。



カワゲラ

写真はイメージ

【底生生物】

出水期後は、ほとんどの地点でR4年台風前における変動の範囲内であり、重要種も増加。
回復傾向を確認。



写真はイメージ

【水生植物】

ほとんどの地点においてこれまでの変動の範囲内。

(3) 対策に対する評価

①濁水対策

- 令和5年度の主な出水は、6月下旬の梅雨前線、8月上旬の台風6号によるものなどがあった。
- 6月下旬の梅雨前線による影響で、貯水池内へ最大約22,400tの濁質が流入。その後の濁水排除運転にて7月下旬には貯水池に清水層が形成されたが、選択取水設備の不具合により上部取水への切替えができず一ツ瀬川の清水化が遅延した。
- 8月上旬の台風6号による影響で約630mmの降雨があり、最大約25,100tの濁質が流入。また、8月下旬には約230mmのまとまった降雨もあったが、設備不具合により操作不能となっていた選択取水設備が10月下旬に復旧し、上部取水への切替を完了した。
- しかし、貯水池内濁水分布状況から、冬期対流による濁水長期化の可能性があったため、非常用放流設備からの濁水排除（10/20～10/23）を効果的に実施し、冬期対流による再濁水化（長期化、越年）を回避することができた。
- 令和5年度は選択取水設備の不具合が影響し、濁水長期化日数が113日間となった。（選択取水設備不具合による影響期間は71日間）

②下流域環境調査

R4年度の台風14号に伴う大規模出水により河川が攪乱されたことから、R5年度も引続き、回復過程を注視し、モニタリング調査を実施した。

多くの項目において、R3年度以前（R4年度の台風14号による攪乱及び対策実施前）の状況となっていた。

下流域のモニタリング調査については、今後も調査を継続し、河川環境の回復過程に注視していく。